

「栄養で日本を救った愛媛の偉人 佐伯 矩」
松山市立東雲小学校 第6学年 水野 恵美莉

松山市立東雲小学校6年 水野 恵美莉

① 生い立ちから栄養学への道

1974(明治37)年、愛媛県喜多郡水見村(現・西条市)の眼科医の長男として生まれる。3歳の時に、父の病気で、1年ほど病室に入院し、幼少期を過ごす。岡山第三高等学校(現・岡山大学理学部)を卒業後、京都帝国大学で栄養学二時に修業し、在学中に、1992(明治55)年に上野英生氏(現・京都府立医科大学)の栄養学博士の論文を指導し、栄養学と食品化学を専攻。

佐伯先生が発見した2つの栄養素

大塚おしほは、健康食品の専門家として知られる。その中でも、野菜に含まれる「ビタミンC」や「βカロテン」という栄養素に特に注目している。

大塚おしほは、野菜に含まれる「ビタミンC」や「βカロテン」という栄養素に特に注目している。これらの栄養素は、人間の健康に大きく影響を与えている。特に「βカロテン」は、視力や免疫力を高める効果がある。また、「ビタミンC」は、抗酸化作用があり、老化を遅らせる効果がある。

佐伯先生は、栄養学の専門家として知られる。その中でも、野菜に含まれる「ビタミンC」や「βカロテン」という栄養素に特に注目している。これらの栄養素は、人間の健康に大きく影響を与えている。特に「βカロテン」は、視力や免疫力を高める効果がある。また、「ビタミンC」は、抗酸化作用があり、老化を遅らせる効果がある。

年月	内容
1974年(明治37年)	愛媛県喜多郡水見村の眼科医の長男に生まれる。
1985年(明治48年)	岡山第三高等学校(現・岡山大学理学部)を卒業し、京都府立医科大学で栄養学二時に修業し、在学中に、1992(明治55)年に上野英生氏(現・京都府立医科大学)の栄養学博士の論文を指導し、栄養学と食品化学を専攻。
1992年(明治55年)	京都府立医科大学で栄養学二時に修業し、在学中に、1992(明治55)年に上野英生氏(現・京都府立医科大学)の栄養学博士の論文を指導し、栄養学と食品化学を専攻。
1994年(平成6年)	京都府立医科大学で栄養学二時に修業し、在学中に、1992(明治55)年に上野英生氏(現・京都府立医科大学)の栄養学博士の論文を指導し、栄養学と食品化学を専攻。
1996年(平成8年)	京都府立医科大学で栄養学二時に修業し、在学中に、1992(明治55)年に上野英生氏(現・京都府立医科大学)の栄養学博士の論文を指導し、栄養学と食品化学を専攻。
1998年(平成10年)	京都府立医科大学で栄養学二時に修業し、在学中に、1992(明治55)年に上野英生氏(現・京都府立医科大学)の栄養学博士の論文を指導し、栄養学と食品化学を専攻。
2000年(平成12年)	京都府立医科大学で栄養学二時に修業し、在学中に、1992(明治55)年に上野英生氏(現・京都府立医科大学)の栄養学博士の論文を指導し、栄養学と食品化学を専攻。
2002年(平成14年)	京都府立医科大学で栄養学二時に修業し、在学中に、1992(明治55)年に上野英生氏(現・京都府立医科大学)の栄養学博士の論文を指導し、栄養学と食品化学を専攻。
2004年(平成16年)	京都府立医科大学で栄養学二時に修業し、在学中に、1992(明治55)年に上野英生氏(現・京都府立医科大学)の栄養学博士の論文を指導し、栄養学と食品化学を専攻。
2006年(平成18年)	京都府立医科大学で栄養学二時に修業し、在学中に、1992(明治55)年に上野英生氏(現・京都府立医科大学)の栄養学博士の論文を指導し、栄養学と食品化学を専攻。
2008年(平成20年)	京都府立医科大学で栄養学二時に修業し、在学中に、1992(明治55)年に上野英生氏(現・京都府立医科大学)の栄養学博士の論文を指導し、栄養学と食品化学を専攻。
2010年(平成22年)	京都府立医科大学で栄養学二時に修業し、在学中に、1992(明治55)年に上野英生氏(現・京都府立医科大学)の栄養学博士の論文を指導し、栄養学と食品化学を専攻。
2012年(平成24年)	京都府立医科大学で栄養学二時に修業し、在学中に、1992(明治55)年に上野英生氏(現・京都府立医科大学)の栄養学博士の論文を指導し、栄養学と食品化学を専攻。
2014年(平成26年)	京都府立医科大学で栄養学二時に修業し、在学中に、1992(明治55)年に上野英生氏(現・京都府立医科大学)の栄養学博士の論文を指導し、栄養学と食品化学を専攻。
2016年(平成28年)	京都府立医科大学で栄養学二時に修業し、在学中に、1992(明治55)年に上野英生氏(現・京都府立医科大学)の栄養学博士の論文を指導し、栄養学と食品化学を専攻。
2018年(平成30年)	京都府立医科大学で栄養学二時に修業し、在学中に、1992(明治55)年に上野英生氏(現・京都府立医科大学)の栄養学博士の論文を指導し、栄養学と食品化学を専攻。
2020年(令和2年)	京都府立医科大学で栄養学二時に修業し、在学中に、1992(明治55)年に上野英生氏(現・京都府立医科大学)の栄養学博士の論文を指導し、栄養学と食品化学を専攻。
2022年(令和4年)	京都府立医科大学で栄養学二時に修業し、在学中に、1992(明治55)年に上野英生氏(現・京都府立医科大学)の栄養学博士の論文を指導し、栄養学と食品化学を専攻。

栄養で日本を救った
愛媛の偉人



佐伯先生は、栄養学の専門家として知られる。その中でも、野菜に含まれる「ビタミンC」や「βカロテン」という栄養素に特に注目している。これらの栄養素は、人間の健康に大きく影響を与えている。特に「βカロテン」は、視力や免疫力を高める効果がある。また、「ビタミンC」は、抗酸化作用があり、老化を遅らせる効果がある。

さ い き た だ す

佐伯 矩

1874年 ~ 1959年

戦前の日本の食料と国民病

当時の日本は、戦時体制下で、食料の不足が深刻な問題となっていた。国民病として知られる「脚気」や「佝僂病」は、食料不足による栄養不足が原因となっていた。佐伯先生は、戦時体制下で、食料の不足を解消するために、野菜に含まれる「ビタミンC」や「βカロテン」という栄養素に注目し、国民病の予防に貢献した。

- ＜佐伯先生が発見したこと＞
1. 体を健康に保つには炭水化物、たんぱく質、脂質の三大栄養素が必要なこと
 2. 元気に活動するためには必要なたんぱく質の基準値があること。
 3. ビタミンやミネラルが欠乏すると病気になること。
 4. 栄養のパラメータは一日の「献立」を考えただけでは足りないこと。
- ★佐伯先生の意見は、SDGsの3番目の人に健康と福祉を達成することには役立ちます。

② 国立栄養研究所の設立と「栄養」から「栄養」へ

1974(明治37)年に、愛媛県喜多郡水見村(現・西条市)に、国立栄養研究所が設立された。この研究所は、栄養学の研究と普及を目的として設立された。佐伯先生は、この研究所の設立に大きく貢献した。この研究所は、栄養学の研究と普及を目的として設立された。佐伯先生は、この研究所の設立に大きく貢献した。

③ 給食の普及へ

1923(大正12)年、開校式が行われた。佐伯先生は、開校式に出席し、給食の重要性を説いた。この給食は、栄養学の研究と普及を目的として設立された。佐伯先生は、この研究所の設立に大きく貢献した。



現在の「学校給食センター」の前身である。

佐伯先生が発見した「栄養パン」3種類

- 全功パン
- 標準パン
- 保健パン

佐伯先生は、栄養学の専門家として知られる。その中でも、野菜に含まれる「ビタミンC」や「βカロテン」という栄養素に特に注目している。これらの栄養素は、人間の健康に大きく影響を与えている。特に「βカロテン」は、視力や免疫力を高める効果がある。また、「ビタミンC」は、抗酸化作用があり、老化を遅らせる効果がある。

④ 佐伯先生の苦学と新たな試み～栄養学校の産出～

佐伯先生は、栄養学の専門家として知られる。その中でも、野菜に含まれる「ビタミンC」や「βカロテン」という栄養素に特に注目している。これらの栄養素は、人間の健康に大きく影響を与えている。特に「βカロテン」は、視力や免疫力を高める効果がある。また、「ビタミンC」は、抗酸化作用があり、老化を遅らせる効果がある。

⑤ 社会貢献と海外の発信

1921(大正10)年に「栄養学会」を創設された。この学会は、栄養学の研究と普及を目的として設立された。佐伯先生は、この学会の設立に大きく貢献した。この学会は、栄養学の研究と普及を目的として設立された。佐伯先生は、この研究所の設立に大きく貢献した。

国際連盟は、1926(昭和元年)に、佐伯先生が国際連盟の代表として出席した。この国際連盟は、栄養学の研究と普及を目的として設立された。佐伯先生は、この研究所の設立に大きく貢献した。

佐伯先生は、国際連盟に対して、国際単位での標準の統一を模索している。これは現在も使われている。国際単位での標準の統一を模索している。これは現在も使われている。

佐伯先生の海外への発信は、SDGs17(パートナーシップ)の目標達成に大きく貢献している。